

博物館だより



No.166

令和2年9月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

◆博物館NEWS

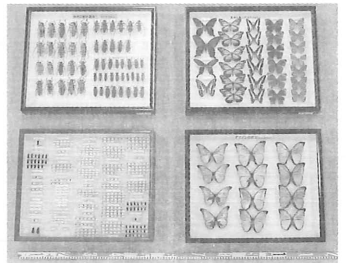
①味違うユニークな資料が仲間入り 充実の昆虫標本資料を 当館に寄贈いただきました

このたび町内豊津在住の松田勝弘さんから、ご本人が60年以上にわたり収集してこられた膨大な昆虫標本資料(標本箱94約2万匹相当)を寄贈頂きました。

標本は種類や採集地域(国内外各所)ももちろんみやこ町も含まれます。別に整理され、学術資料としての価値が高いほか、海外で採



▲寄贈者の松田勝弘さん



▲寄贈された資料の一部 左上から時計回りに①カミキリムシ(豊津)②チョウ(豊津)③モルフォチョウ(ギアナ)④オサムシ(北部九州)

集された資料には、見た目の鮮やかさや迫力ある造形に満ちた資料も多く、見るだけで思わず魅かれてしまいます。

松田さんは「昆虫を通して子どもたちに、故郷の豊かな自然と世界の広がりを知ってもらえたら」とのことです。今回の寄贈を活動の総仕上げにしたいとのことでした。これを機に、館で自然教育活動もできるようなればと思います。

②コロナ下での活動を模索して… 文化遺産ボランティア ようやくの本格活動スタート!

コロナ禍に見舞われ、いきなりの巣ごもりスタートでしたが、7月になってようやく活動の一つが再開できました。

重要文化財永沼家住宅での清掃作業がそれで、今年七月豪雨で地内に流れ込んだ土砂の撤去作業が加わり、少しハードな作業となりました。それでも参加者は充実の笑顔で、引き続きコロナ下でも可能な活動を模索してゆきたいとのことでした。



▲通常の除草作業(上)に土砂撤去作業(下)が加わった活動日でした

◆講座・教室・催し物ガイド 9月の歴史講座【※仮予定】

- 【漢詩紀行講座】
9月5日(土) 9時30分～
 - 【古文書講座】
9月12日(土) 10時～
 - 【古典かな講座】
9月19日(土) 9時30分～
 - 【みやこ学講座】
9月26日(土) 10時～
- ※新型コロナウイルス感染症拡大防止対応に伴い日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途ご案内します。

開催中止等決定イベントについて

博物館や文化係が所管・支援する文化事業のうち、新型コロナウイルス感染症拡大防止対応に伴い、開催の中止等が決定したイベントが発生しています。8月末時点における該当事業は左記のとおりとなりますので、ご参考下さい。

なお、このほかに対応が確定したものが発生した場合、町や館の広報・HP等で順次お知らせするよう致しますので、ご了承下さい。また詳細については不明の点等ございました場合は博物館(0930-33-4666)までお問合せ下さい。

- ①豊とみやこの歴史散歩3
10月期以降開催予定を中止
- ②文化月間記念発表会
10月10日・11日開催予定を中止
- ③みやこ町古墳まつり
10月25日開催予定を中止
- ④豊前国府まつり
これまで11月に開催。昨年を以って事業を終了

7月の業務日誌から

7月21日から55日間、南九州大学の村田真輝さんが学芸員資格取得のため博物館実習にみえました。今回の実習では、資料の取り扱い等の他に、来館者対応における当館の「コロナ対策」についても体験していただきました。

7月22日(水)、豊津小学校3年生の児童を対象に「地域学習」の出前授業を実施しました。三重の塔をはじめ、学校周辺の豊津地域に「自慢の場所」が数多くみられることに驚きの様子でした。



▲例年ではみられない来館者対応も学習することができました



▲地域の「自慢の場所」を詳しく知ることができました

みやこの歴史発見伝 129
令和とその時代 ⑩

みやこのダム物語①

豪雨と治水

本年7月初旬から中旬にかけて記録的な豪雨が続き、九州各地に甚大な被害の爪痕を残しました。現在も残暑の中で懸命な復旧作業が継続しています。今回の豪雨は、短時間のうちにダムの貯水能力を大きく上まわる水量の雨が降ったことから、各地のダムで調整放流のタイミングが示唆され、同時に水を制御する難しさを再認識する結果となりました。

一昨年竣工した伊良原ダムも、被災流域で発生した度重なる水害や渇水に対処するための水量調整を目的とした多目的ダムとして建設されました。「ダム」は「河川や渓谷を堤等で堰き止めた水量調節可能な人工的な溜池」と広く定義できます。このようなダムの起源も、「令和」の詩が詠まれた奈良時代までさかのぼることが出来ます。

今回は「ダム」の歴史から垣間見えてくる、全国的にみても他に例のない、新たなみやこの町の魅力

についてご紹介いたします。

「ダム」の起源

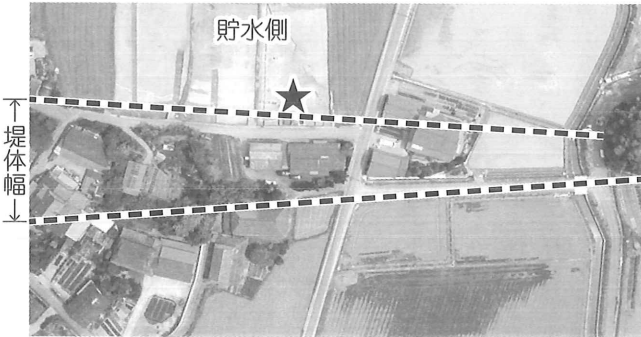
伊良原ダムのようなダムの建設には、大規模な土木工事を伴います。ましてや、人力に依る古代のダム建設には途方もない規模の労力と時間が費やされたものと推察されます。それでもなお「ダム」が建設されたのは、水田に供給するための水の確保がその理由とみられています。この歴史を遡ってみると日本に稲作が伝わると同時に、堰などの灌漑技術が伝えられ、その後、ダム等の高度な施設へと発展したことが確認されています。

初期のダムは、主に水を遮る「堤」、水量調整の「樋」の2つから構成されており、特に堤は、土を互層につき固める技法によって築かれています。この他、特殊な事例として、湿地など軟弱地盤に対して、樹木の枝葉などを敷き詰め基礎の滑りを押さえる「敷粗朶」という技法をみることが出来ます。この技法は1600年ほど前に、中国、朝鮮半島を経由して日本に伝えられた当時の「ハイテク技術」として注目されるものです。このような特徴を備えた「古代のダム」は、海外でも韓国や中国等に僅かな事例が確認されるのみです。しかし今から20年ほど

前、このような施設を備えた「古代のダム」がみやこ町で発見されました。

池田遺跡の発掘調査

みやこ町の北西に位置する勝山「池田」集落の名称は、その昔、この地に展開したとみられる大きな池に由来すると伝えられてきました。江戸・大正時代にはこの池のものとみられる「木樋」が水田から出土した記録があり、現在もその一部が集落に祀られています。この集落の圃場整備事業に伴う発掘調査が実施された際に、土を互層につき固めた「ダム」の体跡が検出され、その基礎部分には枝葉を敷き詰めた「敷粗朶」を



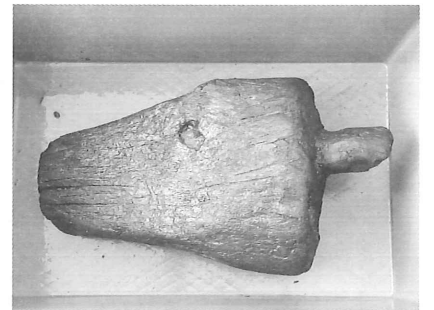
池田遺跡堤体推定ラインと取水施設検出箇所(★の部分)

確認することができました。

また堤に直交するように2列5本の木柱が埋設当時の直立した状態で検出されました。木柱は表面整形に用いられたカンナの痕跡が鮮明に残るものや、長さ2.5m、直径40cmを測る大型の柱等も確認することができました。調査の結果、池田遺跡で検出された取水施設は、「古事記」・「日本書紀」にも登場し、現在、「日本最古のダム式ため池」に位置付けられている狭山池(大阪府狭山市)及び薩摩遺跡(奈良県)の取水施設とよく似た形状であることから、奈良時代から平安時代初期頃につくられた「古代のダム」とみられています。現在国内で確認されている「古代のダム」はこの三例にとどまり、特に池田遺跡は、九州唯一の重要な検出事例として注目されています。

「国内で二個」の貴重な発見

池田遺跡の発掘調査の中で特に重要な出土品に位置付けられているのが木製の「栓」です。この栓はクリの木でつくられた長さ36cm、最大幅24cmを測るもので、長さ7cmの把手が削り出されるなど精巧に造られたものです。木栓は、池から取水する際、水量調節で重要な役割を果たすものですが、「古代のダム」でこのような木栓が



「国内で2個のみ」という貴重な発見となった木栓

最古・最新の「ダムの町」

これまでの詳細な調査の結果から、池田遺跡は人工的に土をつき固めた堤と、その下に設置された木樋に水を流しながら樋門により制御(取・止水)する大変高度な技術が反映された「ダム」であったとみられています。このように、全国的にも類稀な「古代のダム」が発見されたことから、みやこ町に「最古級のダム(池田遺跡)と最新のダム(伊良原ダム)が共存する町」という新たなキャッチフレーズを追加することが出来るかもしれません。

(井上信隆)